



社会教育だより



photo 美郷町 都賀行公民館『わんぱく教室』での消火訓練

特集

地域づくりに資する
人づくりの拠点としての公民館

2015.
10月号

- contents
- 公民館等職員研修から
■ 学びをカタチに!! (浜田市立白砂公民館)
 - わがまちの社会教育の実践紹介 (出雲市・津和野町)
 - 社会教育施設紹介 (男女共同参画センター「あすてらす」)

■島根県が抱える課題と公民館

平成26年に策定した『第2期しまね教育ビジョン21』では、社会教育の役割を「住民同士による実践活動を通じて、地域の活性化や新たな相互扶助の仕組み・コミュニティを構築し、地域力を高めていくこと」としています。

現在の島根県が抱える人口減少・少子高齢化への対応や、身の回りの生活課題、持続的・発展的な地域づくりなどの地域課題について、住民自身が理解し、それらの課題を解決するために主体的に実践する人づくりをすすめる社会教育の役割が重要とされています。

『人づくりや絆づくり・地域づくり』をすすめるためには、学習環境の整備や連携・協働体制の構築を積極的に推進することが必要になります。

■公民館の役割と機能

公民館の目的は「住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること(社会教育法第20条)」とされています。つまり公民館は、実際生活に即する教育、学術、文化に関する事業を行うなど、日常生活に密着した統合的な社会教育施設といえます。

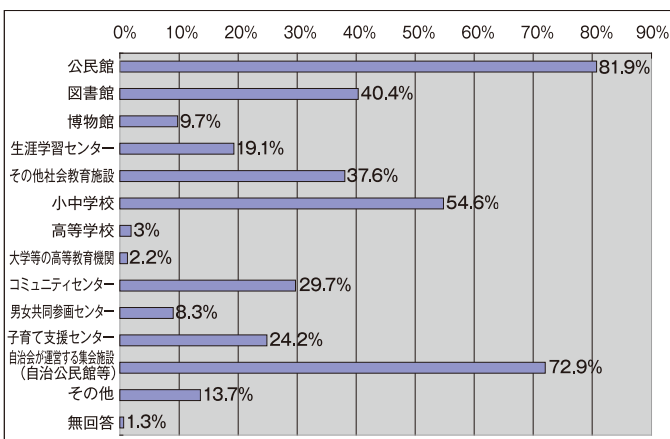
この目的の達成のために、公民館のもつ**“つどう・まなぶ・むすぶ”機能**を活かし、地域課題解決・主体形成づくりにつながる事業に取り組むことが必要となります。

しかし、『公民館の認知度』は40%程度、年に数回以上公民館を利用している人の割合は25%となっています。公民館を利用しない住民のうち『施設の存在は知っているが、役割や活動内容は知らない』と回答した住民は60%で、特に20代~40代で多いという調査結果があります。

一方で、地域住民が参加して行う活動の“拠点”となっている施設としては、公民館が81.9%という結果(『社会教育に関わる地域人材の養成実態及び活動実態に関する調査研究報告書』文部科学省 平成26年3月)から、公民館が“地域活動の拠点”と捉えられていることがわかります。

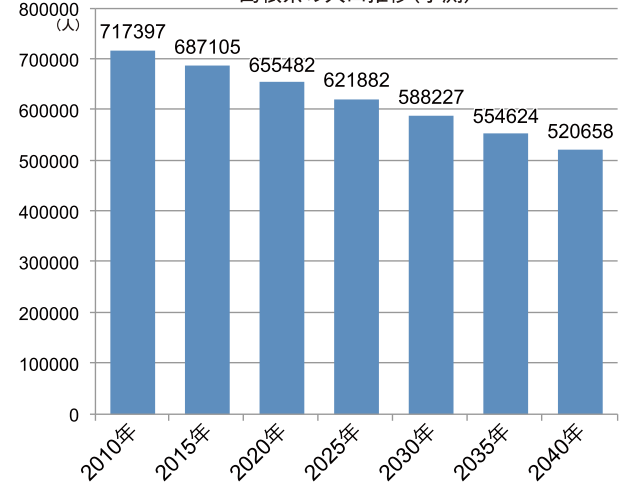
また、公民館等職員は、「今後、公民館等で必要と思われる連携事業や取組等」についての質問に対して、「学級や講座」は65.4%、「地域・学校・家庭と連携した事業」は57.9%、「地域連帯の事業」は40.2%と回答しています。

○住民が参加して行う活動の拠点



平成26年3月「社会教育に関わる地域人材の養成実態及び活動実態に関する調査研究報告書」文部科学省(平成23年3月文部科学省「生涯学習施策に関する調査研究」社会教育指導者の職務に関する調査研究)より

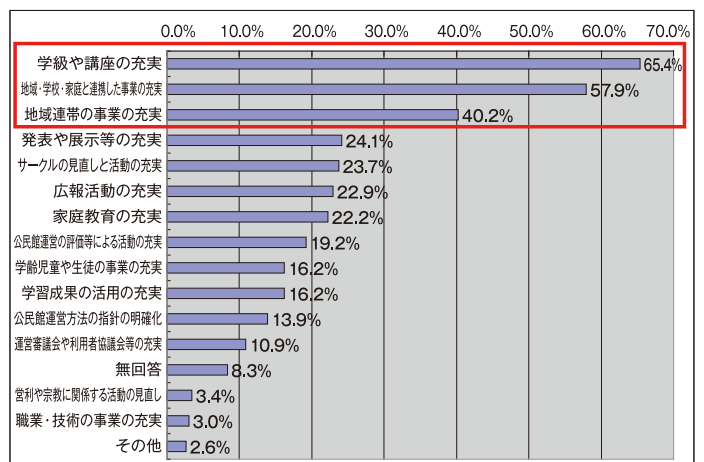
島根県の人口推移(予測)



日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)
国立社会保障・人口問題研究所をもとに作成

- 人口減少・少子高齢化
特に中山間地域で顕著
- 安心・安全への関心の高まり
医師・看護師の不足、防災・減災への取組の推進
- 厳しい経済情勢
公的部門への依存、雇用情勢が厳しい
- 多様な価値観が存在する地域
地域コミュニティの維持・再構築、社会機能の確保

○公民館で今後必要と思われる連携事業、取組みなど



*平成21年7月 全国公民館連合会調べ・文部科学省生涯学習政策局社会教育課行政説明資料より

りの拠点としての公民館

■これからの公民館の役割

平成20年中央教育審議会答申では、公民館等の社会教育施設は社会教育を推進する“地域の拠点施設”として、社会の変化に対応し、各個人や社会全体の新たなニーズに積極的に応えていくことが求められています。

特に、公民館等には「社会の要請」に応じた学習活動の機会の量的・質的な充実に努め、その成果を地域の教育力の向上に生かし、地域における「公共」を形成するための拠点となることが求められています。

目的

個人の学びを豊かにするために

学びによる絆づくりを進めるために

学びの成果を地域に生かすために

人づくりから地域づくりにつなげるために

役割と機能

人々の学習ニーズに応じた
学習機会の提供

地域における
学習・活動の拠点

多様な機関・団体との
連携・ネットワークの拠点

学習成果を生かした
活動の場や機会の提供

※平成27年度主催研修 第1回公民館等職員研修 講義資料をまとめたもの

■公民館等職員に期待する資質・力量とは

公民館等が地域住民に最も身近な社会教育施設として、適切な学習活動を提供するなど能動的、積極的な行動を行うため、公民館等の職員には、社会的要請、地域課題等の調査分析能力や地域住民のニーズを的確に把握する能力をもつことが期待され、様々な研修機会を利用して専門性のある職員として資質の向上を図ることが望まれています。

(平成20年中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」より)



公民館等職員研修のようす

期待される5つの資質・力量



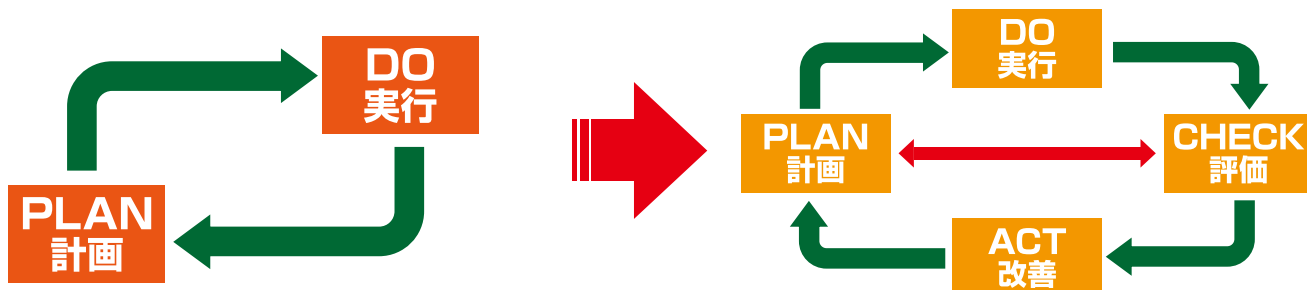
公民館等職員が地域課題解決のために、地域住民を巻き込みながら、見通しをもって計画的に公民館等の事業に取り組むためには、この5つの資質・能力が必要だと考えています。

この5つの資質・力量を高めるため、社会教育研修センターでは、今年度から、『公民館等職員研修「PDCAサイクルを活かした公民館事業の実際」』を年間5回シリーズで実施しています。

PDCAサイクルを活かした公民館事業

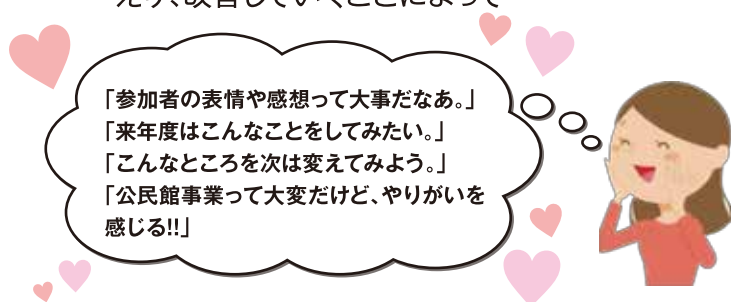
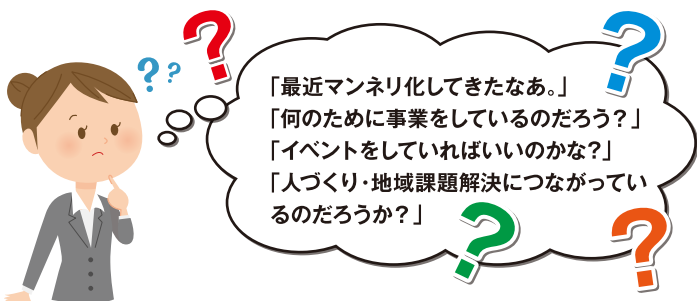
東部・西部社会教育研修センター「公民館等職員研修」より

PDCAサイクルとは？



計画を立てて実践することは大事なことです。
でもこのサイクルだけで続けていくと…

前もって、評価することを考えて計画し、ふりか
えり、改善していくことによって…



PDCAサイクルの効果は？

■どんな効果があるのか？

- ① 成り行き任せの事業展開を回避することができる
- ② 成果を予測するので、優先順位がつけやすく無駄が省ける
- ③ 説得力のある予算立てができ、新たな財源の確保が期待できる
- ④ 評価⇒改善により、次年度の事業がより効果的・効率的になる



PDCAサイクルを活かすために

公民館等職員研修では、PDCAサイクルを活かした公民館等事業を実際に計画し、実践したうえで、その事業を評価、改善していくところまで行っています。また、5回の研修をとおして、公民館等職員に期待される必要な5つの資質・力量(前頁参照)についても理解し、高めていけるよう支援をしています。

公民館等職員研修(全5回)

- 第1回 「これからの公民館に求められる役割と機能について考える」
- 第2回 「実践から公民館事業を見つめ直す」
- 第3回 「まちづくり・人づくりを意識した公民館事業計画の企画・立案」
企画した公民館事業の実践(7月～9月)
- 第4回 「公民館事業の評価と効果的なプレゼンテーション」
- 第5回 「実践発表会とふりかえり」 …… 東部・西部合同実施



今年度、東部13名、西部10名の公民館等職員のみなさんが、PDC Aサイクルを活かした公民館事業の計画・実行・評価を行う研修を受講されました。

来年度以降も、引き続き同様の「公民館等職員研修」を開催する予定としています。県内それぞれの地域において、人づくり、地域づくりの核となって活躍される公民館等の職員の皆さん、ぜひ参加ください。

実践のようす

■美郷町 比之宮公民館

テーマ ばんりゅうきょう 蟠龍峡で火・水・木・食を楽しもう！

子どもたちが自然豊かな地域に住んでいることを実感することをねらって、キャンプを企画・実施しました。

“蟠龍峡の木立や水がとても魅力的である”と地域に住む大人が自信をもって子どもに語ったり、子どもたちは川で泳いだり、魚を釣ったり、夜、峡谷を流れる川の音に耳を傾けたりするなど、ふるさとの自然を満喫しました。

振り返りの会では、“比之宮のよさ”をたくさん出し合う子どもたちの姿が見られました。

Point

意図的・計画的に振り返りの会を設定することで、ふるさとのよさを
実感・共有

ふるさとを
子どもと
ともに



キャンプのふりかえりの会

■奥出雲町 阿井公民館

テーマ “災害時の対策”人とのつながりを確認!!

高齢者が、つながりを築き、自らの役割を認識し、積極的に地域活動へ参加していくことをねらい、企画・実施しました。

町の危機管理監を招き、土砂災害の恐ろしさを学び、ハザードマップや地図を見ながら、避難場所や避難経路について協議しました。

その結果、土砂災害がおこると避難できない経路があったり、集落によっては、遠い避難場所が指定されていたりするなど、新たな発見があり、改めて災害時の体制を見つめ直すことができました。

今後この学びから生まれた課題を自治会連合会にも伝えていく予定です。

Point

地域課題解決に向けた住民の
主体的な学びの機会の創出

地域防災を
高齢者と
ともに



地図上で避難場所・避難経路の確認

■江津市 市山生涯学習センター

テーマ 出会い、ふれあい、共に育つ ～大人と子どもの居場所づくり～

夏休みの子どもの居場所や子ども教室で、子どもたちに中心となってかかわってほしい大人を対象に「子どもたちのかかわりを考え、コミュニケーションのとり方などを学ぶ」研修会を開催しました。

ふるまい推進アドバイザーによるお話と親学プログラムをとおして、積極的な意見交換が行われました。

第2弾として、「普段から顔の見える関係づくり」をめざして、ラジオ体操を一緒に行うことを企画しました。このことで、子どもたちの顔と名前を覚え、毎日の声かけもさらに明るくなりました。

また、子ども教室に参加する大人が自分の得意なことを活かすことで、子どもと本気がかかわったり、はりきって参加したりするなど、“学び”が“やりがい”につながりつつあります。

Point

大人の学びを活かすプログラ
ムを企画・立案し、実施・評価

子どもの育ちを
地域の大人と
ともに



子ども教室にかかわる大人の親学体験

学びをカタチに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを活かし、地域や現場で“地域力の醸成”につながる実践に取り組んでいる方を紹介します。

“つどう・まなぶ・むすぶ”を合い言葉に、気軽に立ち寄れる公民館

浜田市立白砂公民館 主事

吉本 美和子 さん

白砂公民館では、地域住民が地域の特産である西条柿をはじめ、先人から受け継いだ貴重な歴史や文化、自然の恵みに感謝、郷土に愛着と誇りをもっていきいきと暮らせるまちづくりをめざし、さまざまな事業に取り組んでいます。



■“親学プログラムと親学プログラム2” ファシリテーター養成講座を受講して

吉本さんは、平成23年度に「親学プログラムファシリテーター養成講座」を、平成26年度に「親学プログラム2ファシリテーター養成講座」を修了され、親学ファシリテーターとして活躍されています。また、「公民館主事として養成講座や実践で培った『ファシリテート力』を様々なところで活かしている」と話してくださいました。

公民館で行う事業は、参加される方、地域の方が主役です。例えば話し合いにおいて、参加された方が「納得感」や「自分の意見が役に立った」と思ってもらうことが大切で、それを積み重ねていくことが信頼につながり、大きな力として発揮されます。

そのためには、心にためていることを出せる「雰囲気づくり」や話し合いを自分のこととしてもらうための「場づくり」の工夫、相手を尊重し認め合うための「3つのルール」を提示するなど、心がけています。自分たちの住む地域の生活課題や地域課題について、参加者自身が考え、行動しようとする気づきを促すプロセスは、親学ファシリテーター養成講座で学んだことと非常に重なり、大いに役立っています。



■『ファシリテート力を活かして』

「親学プログラム」の実施

7月に浜田市内の中学校区の地区PTA（参加者約80名）で「親学プログラム」に取り組み、市内のファシリテーター6名と共に進行されました。今後は、親学ファシリテーターのネットワークづくりを図るためにも、「親学プログラム」の実施を継続していくことが何よりも大事だと考えておられます。

「ワークショップ」の実施

今年度は、公民館等職員研修（全5回）を受講され、PDCAサイクルを活かした事業を展開されています。「地域に住む人の活動範囲の拡充」を地域課題ととらえ、「交通手段が少ない地域でもいきいきと暮らそう」を学習課題として、ワークショップをひらかれました。「席の配置を工夫され、参加された方が心の中にある“想い”を出し、それが地域の想いや願いとして次第に形を帯びてきた。目の前の人の立場になって進めることを大切にしている。」と話され、地域住民の心にじわじわと火がつくようにするためには、『ファシリテート力』が大切なのだとお話を聴きながら感じました。

今後は、白砂に住んでいる人たちがつながり、世代間交流をさらに深めていくため、リーダー育成に向けて取り組んでいきたいとのことでした。



POINT

これからの地域で“何が大事かを見抜く力”＝“ニーズを的確に把握していく力”が求められます。
東部・西部社会教育研修センターでは、ニーズを的確に把握する研修内容も提供しています。

社会教育の実践紹介



『かわとチャレンジ広場』

～地域のチカラで子どもが変わる 大人も変わろう!～

川跡コミュニティセンター チーフマネジャー 坂本君代

「かわとチャレンジ広場」は遊びの中からマナーを学び、人と人との交流から生きる力を育み、みんなと笑顔を共有できるやさしい心を育てる体験活動として10年目を迎えました。子ども達には「かわチャレ」の愛称で親しまれています。

月2回程度、月曜日の放課後に元気な小学生60名がコミュニティセンターへやって来ます。子ども達の活動を見守り支えてくださるのは地域のおじいちゃん、おばあちゃんです。学校や家庭では学ぶことのできない季節行事や伝統芸能を地域の方とのふれあいの中で学びます。いつも子どもたちのキラキラ笑顔があふれています。



子育て世帯が増加している川跡地区では、子ども事業が充実してきたのは自然な流れだとのこと。地域のみなさんのはつらつとした姿や保護者同士の絆が強まっていく様子が目に浮かぶようです。
(出雲教育事務所
社会教育スタッフ企画幹)



また土曜日の活動として和太鼓、銭太鼓、チアダンス、生け花、茶道教室のクラブ活動も開催しています。子どもたちはさまざまなイベントで学びの成果を発表し積極性や自信をつけました。

“子どもは地域の宝”。ふるさとを愛し自慢できる子どもたちを地域の教育力を活かしながら育てる活動を今後も続けていきたいと思えます。



子どもを支える達人たち

津和野町教育委員会 派遣社会教育主事 大島功央

「仕事を休んででも教える価値がある。」

「ゆうゆうくらぶ」の高津川自然体験教室で、平日にお休みを取って中学生に鮎釣りを指導してくださった方の言葉です。

「ゆうゆうくらぶ」は、日原中央公民館を事務局として、平成25年に発足しました。子どもの健全育成を支援する「達人集団づくり」をめざしています。

理科工作、むかしの遊び、ニュースポーツ、歴史研究など、さまざまな特技や得意分野を持つ地域の「達人」が集い、公民館と連携しながら「夏休み体験教室」「高津川自然体験教室」「森林教室」などの活動を行っています。



誰もが何かの「達人」です。その「達人」たちの自己有用感がたくさん「笑顔」をうみだしています。そのうち町中が笑顔で包まれそうですね。
(益田教育事務所
社会教育スタッフ企画幹)



今年の「夏休み体験教室」では、陶芸・天文教室・絵手紙・日原めぐりなど9つの教室を企画し、のべ200人あまりの小学生が参加しました。これまでの活動の中で、遊びや運動などを指導する方だけでなく、子どもたちを見守り、声をかけ、一緒に遊ぶ方の参加も増えてきました。

自分にできることを通して子どもたちと関わり、ともに笑顔になれる価値ある時間を作りだす、「笑顔づくりの達人」の輪を広げていくことが、これからの「ゆうゆうくらぶ」の目標だと考えています。



ひと ひと 女と男の新たなパートナーシップに向けた総合的事業を展開

男女共同参画の推進のための拠点として、学習・研修、調査・研究、相談、交流事業など多面的な観点から男女共同参画の推進を図っています。市町村や島根県の男女共同参画推進員(サポーター)等と連携し、地域に出かけて講座やセミナーを開催しています。

職場で学ぶ ライフマネジメント講座

県内の企業や団体等を募集し、実施企業等の要望に合わせたテーマ等により働く男性を対象とした職場研修を行います。

ひと ひと 啓発誌『しまねの女と男』

男女共同参画に関する情報を広く県民に普及啓発するため、特集テーマや事業の告知・報告等を掲載し、県民、関係団体等に配布します。



男性のための ブラッシュアップセミナー

男性が男女共同参画に対する理解を深め、これまでの暮らしぶりをふりかえり、これからの人生を考えるきっかけとなるような実践的な連続講座を行います。

あすてらす情報キャラバン

県内の小中学校、高等学校を募集し、情報ライブラリーの図書や啓発グッズ等を活用したワークショップを行います。

学生向け ライフデザイン支援講座

県内の大学生等が男女共同参画の視点をもって将来設計、就職活動等に取り組めるよう、個別のテーマを設定し講座を行います。

男女共同参画に 関する相談

男女共同参画に関する一般相談や市町村男女共同参画条例・計画改定等に関する相談を受け付けています。



女性の活躍推進セミナー

働く女性を対象に、女性自身が「働くこと」や「生活すること」の充実を図るとともに、女性が働きやすい環境づくりを推進するため、参加型の連続セミナー(全3回)を行います。

講師派遣

男女共同参画に向けた学習・研修を開催する各種団体、企業、学校、市町村等からの依頼により職員の派遣を行います。

「公益信託しまね女性ファンド」 事務委託

県内の女性たちが主体的に企画・運営する事業の募集を行い、審査会に向けた申請事業の内容確認や助成金給付事務等を行います。

男女共同参画 お届け講座

男女共同参画に関する様々なテーマを切り口に、市町村等との共催で出張講座形式の講座を行います。



島根県立 男女共同参画センター 「あすてらす」

(指定管理者:公益財団法人しまね女性センター)

大田市大田町大田イ236-4

TEL:0854-84-5500(代)

FAX:0854-84-5589

開館時間/9:00~21:00

※情報ライブラリー・貸館・宿泊受付9:00~19:00

休館日/月曜日・祝日・年末年始

※宿泊施設は、祝日・日曜日(12月~3月)・年末年始が休み

編集スタッフから

山の木々が、風に吹かれごうごうと音を鳴らす。それを“まるで海のような”といった。荒れ狂う波が岩場にたたきつけられる“本物の海”を体感していないとそういった発想はできないだろう。誰がいったか覚えていないが『発想は知識の量から生まれる』という言葉が思い出す。これに体感という言葉を加えてみてはどうだろう…。技術が進み“バーチャル体験”ができたとしても、動物園で“本物”のライオンの吠える声を聞いた時の驚きや好きなアーティストのライブでの感動は忘れられない。今年もまた『つなぐ・つなぐ実践発表交流会』を12月8日(火)・9日(水)に開催します。島根県内の“学校支援・放課後支援・家庭教育支援”で活躍されている人たちがサン・レイクに集まります。“本物”の声を聴きに来られませんか?きっとたくさんの人の“すてきな想い”に出会い、“明日の1歩”が見つかるはずですよ。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/
E-mail: tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/
E-mail: seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp

第22号は
2月末
発行予定